

資料 4

報告事項

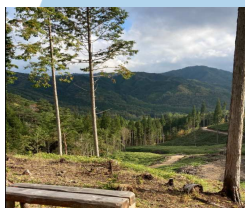
安城市 S D G s 未来都市計画の進捗 評価について



安城ならではの公民連携によるウェルビーイングな脱炭素社会の実現

経済

2030年のあるべき姿
おかねが地域で生まれ、
まわるまち



あんじょうSDGs共創パートナー制度の運用

社会

2030年のあるべき姿
人が参加し、
支え合うまち



環境

2030年のあるべき姿
資源・エネルギーが
循環するまち



推進力

関係

活かしかう
しくみづくり。

安城市と事業者等が、それぞれの
ノウハウを活かし地域課題の解決
や持続可能なまちの実現を目指す。

自発的につながる
場づくり。

公民、公公、民民が自発的につな
がる場を生み出し、
マルチパートナーシップによる事
業展開を加速させる。



1. 全体計画（2030年のあるべき姿）

(1) 計画タイトル

安城市SDGs未来都市計画

(2) 2030年のあるべき姿

本市においては市としてのトップビジョンである健幸都市＝ウェルビーイングの実現を念頭に「安城ならではの公民連携によるウェルビーイングな脱炭素社会」の構築を目指す。公民連携の仕組み、DXを活用しながら以下の3つを実現しながら、その構築を図っていく。

- ①おかねが地域で生まれ、まわるまち
- ②人が参加し、支え合うまち
- ③資源・エネルギーが循環するまち

(3) 2030年のあるべき姿の実現へ向けた優先的なゴール



(4) 2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況

No	指標名 ※[]内はゴール・ターゲット番号	当初値	2024年（現状値）	2030年（目標値）	達成度（%）
1	全産業の従業者数 【7.2, 7.a, 8.2, 8.3, 9.1, 9.4, 9.5, 11.2, 11.a, 13.1】	2016年度 106,789 人	2021年度 107,931 人	2030年 109,000 人	52%
2	安城市を住みよと感じる市民の割合 【3.6, 3.9, 4.4, 11.2, 11.3, 11.6, 11.7, 11.a, 15.1, 15.4】	2021年7月 91.6 %	2023年8月 93.8 %	2030年 95 %	65%
3	温室効果ガス排出量 【4.1, 7.1, 7.2, 7.a, 11.6, 12.5, 12.8, 13.3, 15.1, 15.4】	2017年度 2,626 千t-CO2	2022年度 2,106 千t-CO2	2030年 1,916 千t-CO2	73%

(5) 「2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

温室効果ガス排出量については、2017年度2,626千t-CO2に対し、2022年度2,106千t-CO2となり、達成率73%であった。令和5年3月に東邦ガス（株）と「カーボンニュートラル推進等に関する包括連携協定」を締結し、環境クリーンセンターの廃棄物発電による公共施設へのCO2フリー電力の供給やカーボンニュートラルな都市ガスの供給など、公民連携でカーボンニュートラル化を進めている。さらに、令和6年度からは、国のJ-クレジット制度により「家庭用燃料電池システム（エネファーム）」から生み出される環境価値を市内の地球温暖化防止対策に活用する取組を行っている。

また、SDGsの実現を共に推進する民間企業等との連携の仕組みである「あんじょうSDGs共創パートナー制度」の登録事業者数は317者（2025年3月31日時点）となった。「あんじょうSDGs共創パートナー制度」からは、民間事業者間の連携により社会課題を解決するビジネスモデルとして、シーホース三河の使用済み応援Tシャツなどの衣料をアップサイクルする事業である「青援LOOP」を創出した。今後も本制度を活用し、地域企業の持つ知見や技術力などを最大限活用しながら、地域産業の変革や人材育成により脱炭素社会、市民のウェルビーイングの実現を目指す。



安城市SDGs未来都市計画
掲載ページ（安城市公式HP）

1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2022年～2024年

(1) 自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況

No	取組名	指標名	当初値	2022年実績	2023年実績	2024年実績	2024年目標値	達成度(%)
1	脱炭素型次世代産業の育成	地域事業者と市が連携して実施する社会実験等の実施数	2021年度 1件	2022年度 3件	2023年度 4件	2024年度 4件	2024年度 9件/3年	122%
2	脱炭素型次世代産業の育成	安城市版SDGs未来会議実施数	2021年度 1回	2022年度 2回	2023年度 1回	2024年度 1回	2024年度 3回/3年	133%
3	脱炭素社会の基盤づくり	公共空間等を活用した、まちをつかうオーディエンス獲得数	2020年度 290件/年	2022年度 20,959件/年	2023年度 35,010件/年	2024年度 30,889件/年	2024年度 2,400件/年	1450%
4	未来の人材育成推進	市内幼保小中高校と連携して実施したSDGsプログラムの数	2021年度 10回/年	2022年度 13回/年	2023年度 12回/年	2024年度 12回/年	2024年度 12回/年	100%
5	資源・エネルギーの循環利用促進	市内事業者と連携して実施した脱炭素に資する連携事業数	2021年度 1件	2022年度 1回/年	2023年度 3回/年	2024年度 3回/年	2024年度 3件/3年	233%
6	長野県根羽村との連携	根羽村との連携事業数	2021年度 2件/年	2022年度 2件/年	2023年度 2件/年	2024年度 2件/年	2024年度 6件/3年	100%

(2) 自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等

自律的好循環の創出は、民間事業者等の技術や人材、実施している取組み及び抱えている課題をお互いに理解し合うことから始める必要がある。本市との連携に限らず事業者間の対話・連携を促すため、市独自の登録制度「あんじょうSDGs共創パートナー制度」をプラットフォームとして、パートナー交流会やSDGs未来会議等の対話の機会を創出しており、実際に事業者間で連携したプロジェクトも誕生した。また、本制度を活用した市内幼保小中高校へのSDGs出前授業の実施等、公民連携で地域のSDGsを推進している。

(3) 「自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

すべての項目で目標を達成することができた。前述の「あんじょうSDGs共創パートナー制度」が推進力になっていると考える。特に、未来の人材育成推進の取組では、本制度の登録企業が、小中学校を対象としたSDGsの出前授業や、高校生を対象としたインタビュー事業の取材の受け入れなどを積極的に担っていただいた。今後もあんじょうSDGs共創パートナー制度をさらに活用し、本市ならではの公民連携による地域課題解決の取組を進めていきたい。さらなる事業創出のため、成功事例を共有するパートナー交流会の実施、共創パートナーのシーズ、ニーズの掘り起こし及び市が抱える行政課題の投げかけなどを実施していく。

(4) 有識者からの取組に対する評価

SDGsに取り組む企業・団体等の活動の裾野を広げることを目的としたパートナー登録制度を中核にして、地域企業や地域金融機関が活発な活動を展開し、自律的好循環の実現に成功しつつある。

第2期SDGs未来都市計画 KPI

計画期間2025年～2027年

(1) 2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況

No	指標名 ※[]内はゴール・ターゲット番号	当初値	2030年(目標値)
1	全産業の従業者数 【7.2, 7.a, 8.2, 8.3, 9.1, 9.4, 9.5, 11.2, 11.a, 13.1】	2021年度 107,931 人	2030年 109,000 人
2	安城市を住みよいと感じる市民の割合 【3.6, 3.9, 4.4, 11.2, 11.3, 11.6, 11.7, 11.a, 15.1, 15.4】	2021年7月 91.6 %	2030年 95 %
3	温室効果ガス排出量 【4.1, 7.1, 7.2, 7.a, 11.6, 12.5, 12.8, 13.3, 15.1, 15.4】	2021年度 1,520 千t-CO2	2030年 959 千t-CO2

(2) 自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況

No	取組名	指標名	当初値	目標値
1	脱炭素型次世代産業の育成	地域事業者と市が連携して実施する社会実験等の実施数	2024年度 4 件	2027年度 9 件/3年
2	脱炭素型次世代産業の育成	安城市版SDGs未来会議実施数	2024年度 1 回	2027年度 3 回/3年
3	脱炭素社会の基盤づくり	多目的交流拠点及び地区内の公共空間等の活用回数	2024年度 40 回/年	2027年度 40 回/年
4	未来の人材育成推進	市内幼保小中高校と連携して実施したSDGsプログラム回数	2024年度 12 回/年	2027年度 12 回/年
5	資源・エネルギーの循環利用促進	市内事業者と連携して実施した脱炭素に資する連携事業数	2024年度 3 件	2027年度 3 件/3年
6	長野県根羽村との連携	根羽村との連携事業数	2024年度 2 件/年	2027年度 6 件/3年